

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（10月）の予測

発表日：2009年11月30日（月）

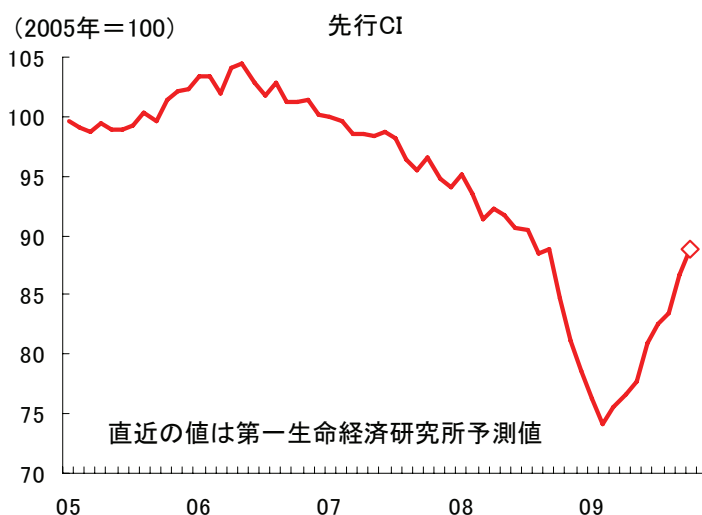
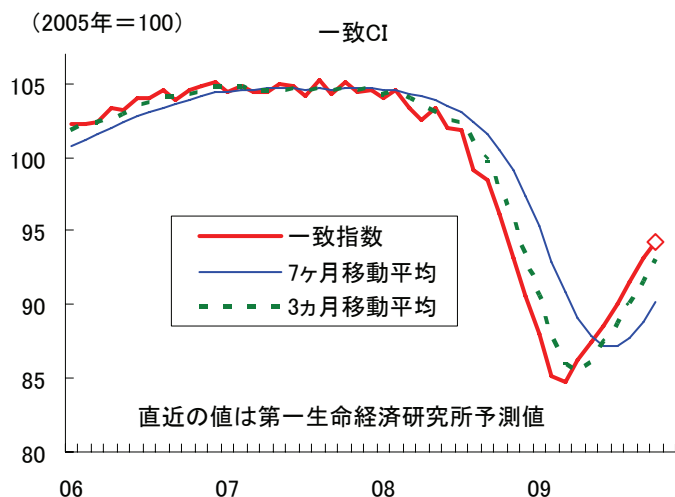
～基調判断は「改善」に上方修正される見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

12月8日に公表される09年10月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+1.1ポイントと、7ヶ月連続の上昇が予想される。輸出の増加等を背景としてC I一致指数は09年3月をボトムとして上昇しており、景気が回復基調にあることが示される見込みだ。内訳では、投資財出荷指数がマイナスに寄与するが、その他の系列はすべてプラスに寄与するとみられる。鉱工業生産指数や生産財出荷指数は小幅なプラスにとどまるが、大口電力需要量、所定外労働時間、中小企業売上高などの寄与が大きい。また、C I先行指数も前月差+2.2ポイントと、8ヶ月連続の上昇を予想する。D Iについては、一致D I、先行C Iとも100%が予想される。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、9月に「下げ止まり」から「局面変化」へ上方修正されていたが、10月分では、さらに「改善」に上方修正される見込みである。上方修正は2ヶ月連続である。内閣府の定義によれば、「改善」とは「景気拡張の可能性が高いことを示す」とされている¹。一致C Iからも、景気が回復局面にあることが改めて確認されるだろう。

景気の山谷の判定はヒストリカルD Iを用いて行うため、C Iの基調判断と景気局面が直接対応するわけではないが、過去の景気の山谷とC Iの山谷はかなり連動している。実際にヒストリカルD Iを計算すると、景気の谷は09年3月となり、一致C Iのボトムの時期と一致する。最終的な認定はまだ先のことになるが、事後的に見て09年3月が景気の谷だったと判定されることになるだろう。



¹ 「局面変化」とは「事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。」とされている。